

偶発的下垂体腫瘍に関する研究

研究分担者

田原 重志 日本医科大学・医学部 准教授

西岡 宏 国家公務員共済組合連合会 虎ノ門病院・間脳下垂体外科 部長

松野 彰 帝京大学・医学部 教授

井野元 智恵 東海大学・医学部 講師

研究要旨

現行の偶発的下垂体腫瘍（インシデンタローマ）の診療ガイドラインに関する問題点を明らかにし、改定案を作成した。そして新たに偶発的下垂体腫瘍（インシデンタローマ）の診断と治療の手引きを作成した。

A. 研究目的

現行の偶発的下垂体腫瘍（インシデンタローマ）の診療ガイドラインの問題点を明らかにし、改定案を作成する。また、偶発的下垂体腫瘍（インシデンタローマ）の診断と治療の手引きを作成する。

される嚢胞性病変や、他の下垂体疾患も多いため、今回はこれらの病変も対象とした。偶発的下垂体腫瘍（インシデンタローマ）の対象は腫瘍性病変、腫瘍類似疾患、および非腫瘍性疾患と多岐にわたるため、疾患の一覧表を作成した。

B. 研究方法

諸外国の治療指針や、最新の文献を参考にして、現行の偶発的下垂体腫瘍（インシデンタローマ）の診療ガイドラインにおける問題点を明らかにし、これまでの当研究班における議論も踏まえ、偶発的下垂体腫瘍（インシデンタローマ）の診断と治療の手引きの改定案を作成した。

（倫理面への配慮）

特記すべきことなし

下垂体腺腫に関する手術適応は従来と変更点はなかった。一方、経過観察を行う場合、若年者の増殖能の高い下垂体腺腫や、下垂体腺腫以外の悪性腫瘍の可能性もあることから、当初3ヶ月後にも画像、および内分泌機能の検査を行うこととした。また、進行性の下垂体機能低下症がある場合には手術を考慮することと記載した。また、下垂体機能低下症がある場合には適切な補充療法を行うことと明記した。

最後に日本脳ドック学会からも無症候性脳腫瘍に関するガイドラインがでており、これと大きな相違がないことを確認した。

C. 研究結果

従来の偶発的下垂体腫瘍（インシデンタローマ）の診療ガイドラインでは下垂体腺腫のみを対象としていた。しかし下垂体部にはラトケ嚢胞に代表

D. 考察

今回、下垂体腺腫以外の症例を含めることで、下垂体偶発腫瘍を幅広い概念で捉えることができた。また、これにより日本脳ドック学会の治療指針との乖離が少なくなったと思われる。さらに見逃してはいけな悪性腫瘍や、増殖能の高い腫瘍に対応することもできたと思われる。

E. 結論

現行の偶発的下垂体腫瘍（インシデントローマ）の診療ガイドラインの問題点を明らかにし、改定版を作成、日本内分泌学会での承認を経て公表した。

F. 健康危険情報 略

G. 研究発表

1. 論文発表

Soga A, Fukuda I, Kobayashi S, Tahara S, Morita A, Sugihara H. Preoperative growth hormone (GH) peak values during a GH releasing peptide-2 test reflect the severity of hypopituitarism and the postoperative recovery of GH secretion in patients with non-functioning pituitary adenomas. doi: 10.1507/endocrj. EJ 19-0288. Epub 2019 Nov 26.

Hattori Y, Tahara S, Aso S, Matsui H, Fushimi K, Yasunaga H, Morita A. Pituitary surgery's epidemiology using a national inpatient database in Japan. Acta Neurochir (Wien) in press.

Asa SL, Ascoli S, Bozkurt S, Casar-Borota O, Chinezu L, Comunoglu N, Cossu G, Cusimano M, Delgrange E, Earls P, Ezzat S, Gaziglu N,

Grossman A, Guaraldi F, Hickman RA, Ikeda H, Jaffrain-Rea ML, Karavitaki N, Kraljević I, La Rosa S, Manojlović-Gačić E, Maartens N, McCutcheon IE, Messerer M, Mete O, Nishioka H, Oz B, Pakbaz S, Pekmezci M, Perry A, Reiniger L, Roncaroli F, Saeger W, Söylemezoğlu F, Tachibana O, Trouillas J, Turchini J, Uccella S, Villa C, Yamada S, Yarman S. Pituitary neuroendocrine tumors (PitNETs): nomenclature evolution, not clinical revolution. Pituitary 2019 [Epub ahead of print]

西岡 宏, 井下尚子. 総説：下垂体腫瘍の 2017 年 WHO 組織分類. No Shinkei Geka 47: 597-606, 2019

大山健一、廣畑倫生、江戸直樹、盛田幸司、石川敏夫、寺本明、松野彰：嚢胞性下垂体偶発腫の治療指針. ACTH RELATED PEPTIDES: 30:7-8, 2019

長村義之、大山健一、田原重志、木村みどり、井野元知恵、寺本明、松野彰：下垂体腫瘍の病理診断における免疫染色の重要性. ACTH RELATED PEPTIDES: 30:30-31, 2019

廣畑倫生、松野彰：下垂体前葉機能低下症 日本医師会雑誌特別号『指定難病ペディア 2019』： 148: S252-S254, 2019

2. 学会発表

大野万葉、福田いずみ、曾我彬美、田原重志、森田明夫、杉原仁. 下垂体偶発腫と症候性下垂体腫瘍の比較 第 92 回日本内分泌学会学術総会 2019 年 5 月 仙台

服部裕次郎、田原重志、麻生将太郎、松居宏樹、

伏見清秀, 康永秀生, 森田明夫. ビックデータを用いた下垂体手術の疫学的検討 第 29 回臨床内分泌代謝アップデート 2019 年 11 月 高知

服部裕次郎, 田原重志, 喜多村孝雄, 久保田麻紗美, 石坂栄太郎, 井野元智恵, 長村義之, 森田明夫 下垂体細胞腫(pituicytoma)の臨床病理学的検討 第 92 回 日本内分泌学会学術総会 2019 年 5 月 仙台

大山健一, 田原重志, 廣畑倫生, 展広智, 山王直子, 寺本明, 森田明夫, 松野彰. 無症候性下垂体部腫瘍に対する治療適応とタイミング 第 78 回 日本脳神経外科学会総会 2019 年 10 月 大阪

田原重志, 服部裕次郎, 寺本紳一郎, 福田いずみ, 杉原仁, 井野元智恵, 長村義之, 寺本明, 森田明夫 間脳-下垂体系の診断と治療の up-date 自己免疫性下垂体炎に対する経鼻的生検術の実際 第 46 回 日本神経内分泌学会 2019 年 10 月 東京

西岡 宏, 福原宏和, 福原紀章, 岡田満夫, 山田正三 巨大非機能性下垂体腺腫の長期治療成績と組織所見 第 78 回 日本脳神経外科学会総会 2019 年 10 月 大阪

西岡 宏 非腫瘍性下垂体疾患の病態、診断と治療 第 29 回臨床内分泌代謝アップデート 2019 年 11 月 高知

大山健一, 廣畑倫生, 小川真澄, 江戸直樹, 高橋諭, 盛田幸司, 石川敏夫, 斉藤光次, 笹島ゆう子, 近藤福雄, 井野元智恵, 寺本明, 長村義之, 松野彰 ト

ルコ鞍部嚢胞性腫瘍の一例 第 92 回日本内分泌学会学術総会 2019 年 5 月 仙台

大山健一, 井野元智恵, 中里一郎, 松田みどり, 田原重志, 森田明夫, 寺本明, 長村義之, 松野彰 下垂体腺腫における Insulinoma-associated protein 1 (INSM1) の発現に関する免疫組織化学的検討 第 20 回日本分子脳神経外科学会 2019 年 8 月 東京

大山健一, 廣畑倫生, 江戸直樹, 盛田幸司, 石川敏夫, 田原重志, 森田明夫, 寺本明, 松野彰 下垂体部嚢胞性疾患の治療-ラトケ嚢胞・くも膜嚢胞・頭蓋咽頭腫に関して 第 46 回日本神経内分泌学会学術集会 2019 年 10 月 東京

大山健一, 廣畑倫生, 小野田恵介, 寺本明, 松野彰 難治性下垂体腺腫に対する内視鏡下経鼻頭蓋底手術手技 第 26 回日本神経内視鏡学会 2019 年 11 月 横浜

井野元智恵, 長村義之 間脳-下垂体系の診断と治療の up-date, 下垂体炎の病理診断 第 46 回 日本神経内分泌学会 2019 年 10 月 東京

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
該当なし
2. 実用新案登録
該当なし
3. その他
該当なし